

墨田区のお知らせ2014.10.1

NO.1760
(毎月1日・11日・21日発行)

すみだ

発行：墨田区(広報広聴担当) 公5608-1111代表 〒130-8640墨田区吾妻橋一丁目23番20号

2つの矩形が寄り添うシンボルは、墨田区在住・在勤者、企業やNPOなどと、区および区職員との協働・協治を表すものです。

- 2面以降の主な内容
- 2・3面…東京文化財ウィーク2014
- 4・5面…東京都シルバーパス
- 6面…すこやかライフ
- 7・8面…講座・教室・催し・募集

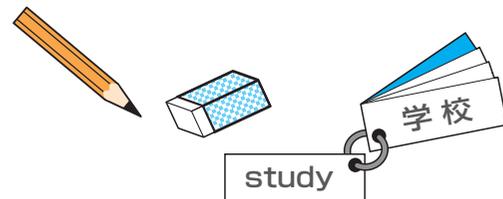
すみだと全国の旬間歳時記

●秋晴れ

秋に見られる、空が抜けるように澄み渡った晴天のこと。移動性高気圧に覆われた日や台風が通過した翌日にこのような天気となる。秋の素晴らしさを意味する故事「天高く馬肥ゆる秋」の「天高く」とは、この秋晴れのことを指す。

<http://www.city.sumida.lg.jp/>

子どもたちの学びを支援していきます 学力向上「新すみだプラン」



区では、学校・家庭・地域の総合的な教育力の向上を通して子どもたちの学力向上を図るため、「学力向上「新すみだプラン」」を展開しています。そこで、「墨田区学力向上3か年計画」に基づき平成25年度から進めている、授業の改善に向けた取組の強化や家庭学習を補う事業など、取組内容の一部をご紹介します。

学校・家庭・地域の連携で子どもたちの学びを後押し

児童・生徒の学力向上には、学校の授業の改善に加えて、家庭や地域の皆さんと連携した取組が欠かせません。そこで区では、学校・家庭・地域の教育力の向上を柱とする「学力向上「新すみだプラン」」に基づき、様々な施策を展開しています。このプランではまず、子どもたちの現状や課題を客観的に把握するため、毎年度「墨田区学習状況調査」を行っています。これまでの調査により、「基

礎・基本が未定着」、「授業以外での学習時間が少ない」などの課題が明らかとなっています。

こうした課題を解決するため、平成25年度には学力向上施策の数値目標を定めた「墨田区学力向上3か年計画」を策定しました。そして、「墨田区学習状況調査」の評価方法を、集団内で相対的に行う「相対評価」から、目標に対する到達度で判断する「絶対評価」へと変更することで、学習定着度の正確な把握が可能で、学校や児童・生徒の努力を評価に反映しやすい仕組みとしました。現在は、



全国平均値を目標として、学校ごとに「授業改善プラン」を策定するなど、学校や教員の授業力の向上に取り組んでいます。

子どもの学力向上には、学校の授業の質的な向上だけでなく、家庭での取組も大切です。学校での出来

事やその日に学んだことを子どもと話したり、各学校で行っている補習教室を活用したりするなどして、家庭における学習習慣づくりに取り組んでいきましょう。

【問合せ】すみだ教育研究所 公5608-6621

学力向上のための取組をご紹介します

学校の教育力

幼児期から義務教育修了までの一貫性・連続性のある教育により学力向上を図る「幼保小中一貫教育」を進め、昨年度から区内全域で展開しています。

家庭の教育力

家庭学習の習慣付けや基礎学力の定着のため、区立の全小・中学校で「放課後すみだ塾」を開催しています。

学習状況調査で「目標に向けて普段からこつこつと学習している」と答えた児童・生徒の割合が23年度以降、上昇傾向にあることから、引き続き放課後学習の取組を進めていきます。

地域の教育力

地域の皆さんや団体・企業等が各学校に出向き、それぞれの専門分野について「出前授業」を実施しています。現在の区の教育課題に応じたメニューの開発など、内容の充実を図っています。

すみだチャレンジ教室

昨年度から、基礎学力の定着や学習習慣の確立などを目的とした集中補習講座「すみだチャレンジ教室」を開催しています。昨年度は学習意欲と学力の向上に効果が見られたため、今年度は、夏休みと冬休みに加え、重点支援校では土曜日にも開催して

勉強を好きになってくれたことが本当にうれしいですね

8月に開催した「夏休み すみだチャレンジ教室」で英語の講師を務めた高須義之さん

勉強が苦手な子どもは「できないから嫌い、嫌いだからやらない、やらないからますますできなくなる」という悪循環に陥っていることがあります。なので「できたら楽しい」ことを実感し、勉強を好きになってもらうためにはどうしたら良いかをとことん考え、生徒と5日間向き合いました。

初めは説明をしてもすぐに飽きてしまったり、宿題をやってこなかったりと、勉強に対して苦手意識が強く、あまり意欲が見られない生徒もいました。ですが、授

業を重ねていく中で、集中して取り組むようになっていたり、質問にも積極的に答えてくれるようになっていたり、勉強に取り組む姿勢が変わっていくのが感じられました。初日に「英語は嫌い」と言っていた生徒が、最終日に「英語は「楽しい」から100%好き」と笑顔で話してくれたときには、涙が出そうなくらいうれしかったですね。

